(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書

学校整理番号	特2
学校名	青森県立八戸盲学校
対象障害種別	視覚

自己評価実施日	令和 7年 1月 22日(水)
学校関係者評価実施日	令和 7年 2月 6日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会委員 11名

(1) 学校教育目標	心豊かに、たくましく生きぬく人間を育成する。 (1) 進んで体を鍛える子 (2) 進んで学習に取り組む子 (3) 仲良く助け合う子 (4) 根気強く実践する子
------------	--

(2) 現状と課題	(現状) 在籍児童生徒数は10人で、ここ数年は横ばいである。特別支援学校としては小規模校であるが、地域における特別支援教育のセンター的機能を果たしながら、視覚障がいを中心とした教育の充実に取り組んでいる。人事異動により、視覚障がい教育の経験豊富な教員が数名となり、専門性の維持及び指導技術の継承が課題となっている。 (課題) 障がいの理解啓発を含め、地域の理解と協力を得るところがやや不十分である。地域の中で活動し、将来的に地域で自立した生活ができるようになるため、地域を生かした体験学習の充実を図る。
-----------	--

(3) 重点目標	1	運動の習慣化と体力の増進、健康に関する知識と技能の定着、食育の充実、危険を予測、回避する能力の育成により、健康で安全な学校生活を送れるようにする。
	2	基礎的・基本的な学習の定着、探究的な学び、興味関心を広げる学習により、授業の充実を図る。
	3	道徳教育の充実、自己有用感、自己肯定感を高める学習活動、互いの良さを認め合える活動、自分を表現できる力の育成により、豊かな心とコミュニケーションを養う。
	4	保護者と連携した教育活動、学校運営協議会の学校運営への参画、地域資源を生かした学校行事や校外活動、障がい理解のためのゲストティーチャー派遣、教育相談により、地域貢献を図る。
	5	キャリア教育の充実、情報化や国際化に対応する教育の推進により、時代のニーズに応じた教育の推進を図る。
	6	業務の仕分けと整理整頓、年休の計画的消化の促進により、働きがいのある教員の働き方について改革を推進する。
	7	服務規律を遵守しつつ、学校組織としての在り方を共有し、実行力(成果責任と業務遂行責任)の向上を図る。

(4) 結果の公表	学校運営協議会委員や保護者、教職員には、結果を書面で配付し、学校運営協議会や保護者集会、職員会議で説明した。その他に学校のホームページで公表する。
-----------	---

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	・運動の習慣化と体力の増進 ・健康に関する知識と技能 ・食育の充実 ・危険を予測、回避する能力	朝の時間や体育等で運動する機会を確保するとともに、健康観察や給食等で健康や安全に関する指導を行う。	生活目標の評価を定期的に行うことで運動後の手洗いや、食事の取り方などについて自分から考え、行動することが増えてきた。給食の残食量も減少している。	B	児童生徒の食事量や栄養のバランス、好み等を考慮した給食や寄宿舎の食事が提供されている。実態に合わせた食育が大切である。	自分から取り組めるように、食育や健康安全に関する指導の機会を増やす。休日や長期休業の過ごし方について保護者と連携しながら進める。
2	・基礎・基本的な学習の定着 ・興味・関心を引き出す授業 ・主体的対話的で深い学び	実態を的確に把握し、興味・関心のある学習を取り入れ、ICTや外部人材を活用した学習を行う。	ICTや、外部人材を活用した学習を通して、興味・関心を広げ、探究的な学習ができた。アプリの活用や話し合い活動を積極的に授業に取り入れた。	B	ICT等を活用した授業が行われ、視覚障がいに配慮した授業が行われている。今後も維持・継承の継続が大切である。	探究的な学びができるよう地域の人材を活用したり全教員が専門性を高める研修会を行ったりし、教科指導やICT活用のスキルの向上を図る。

3	<ul style="list-style-type: none"> ・自己有用感、自己肯定感 ・互いの良さを認め合う ・自分を表現できる力 	道徳の時間や特別活動、その他の教科でも学習する機会を設定する。	自分の良さや相手の気持ちを考える機会を設定することで、話し合い活動で自信をもって発言したり、相手を気遣ったりする様子が見られた。	B	複数で活動することで他の人のよさや考えに気づき、コミュニケーションの力を育てることにつながっている。	自己有用感や自己肯定感を十分に評価できるよう、記録を取り変容を見る。自分を表現する力を伸ばせるよう、互いを認め合う活動を今後も実施する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連携した教育活動 ・学校運営協議会の参画 ・地域資源を生かした活動 	校外学習や外部講師による学習、学校運営協議会における熟議の推進を行う。	熟議や児童生徒のアンケートを元に、アイラブ八戸を実施できた。学校運営協議会に児童が参加し、熟議で要望を伝えたことで地域での活動を推進することができた。	A	委員がアイラブ八戸に参加したり熟議に児童が参加したりしたことで、児童生徒の願いが分かり、具体化の方法を検討することができた。	地域の特色を知ることや地域を活用するところが十分ではないため、全校体制で学ぶアイラブ八戸を継続し、協働して取り組む。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の充実 ・情報教育の推進 ・国際理解教育の推進 	キャリアパスポートを活用して将来を考えるとともに、ICT活用による情報収集に努める。	三沢米軍基地での国際交流やALTによる外国語活動、ICTを活用した学習などを活発に取り入れ、推進することができた。	A	ICTを積極的に活用して将来のことや地域のことを調べ、実際に体験することで学習が充実している。	地域で自立した生活を営む人材を育成するために、学校で教育できることを整理し、学齢に応じて指導する必要がある。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の仕分け ・整理整頓 ・年休の計画的消化 	二つ以上の業務の削減や縮小、年間17日以上年休の取得を推進目標として設定する。	県の目標である年休16日以上を取得することができた。時間外及び休日労働時間の平均時間が昨年度よりも2時間以上減少し、月45時間以上勤務の教員数も減少した。	A	時間外勤務時間の平均時間等が減少し、年休取得の目標は達成されてはいないが、昨年度よりも改善され働きやすい職場である。	組織的に年休取得を促し、授業に支障がない範囲内で教員が交代で年休を取得できるように計画する。確実に実施するため、業務を削減する必要がある。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・服従規律の遵守 ・学校組織の在り方の共有 	服従規律に関する資料を提示して徹底を図ると共に、職員室で気軽に話し合える雰囲気醸成する。	授業での児童生徒の様子を職員室で語り合い、授業を見直す機会が得られていた。体罰やセクハラなどを含む規律違反はなかった。	A	職員室で児童生徒について語り合う雰囲気があり、教員間の同僚制性がある程度保たれ、教員としての服従規律が遵守されている。	携帯電話のマナーモード設定、個人的なことを大声で長時間話さないなど、職員室内のマナーの向上を図る。
(11) 総括	児童生徒、保護者、教職員（教員、寄宿舎指導員、事務職員）、学校運営協議会委員によるアンケートを4件法で実施した。児童生徒の評価が平均3.40、保護者の評価が平均3.62、教員が平均3.47、寄宿舎指導員が平均3.69、事務職員3.98、学校運営協議会委員3.72で、いずれも段階評価Aという高評価であった。今後は、学校運営協議会を効果的に活用しつつ、教育活動に地域の特色を探る学習を取り入れ、地域の中で生きる力を育成することを推進する。					